ぬこと、或る一部に利用されて居ると言ふ傾向のあること、即ち貸付金にしても組合員數が五百ならば二百しかない、又其の貸付の利子が銀行と同じやうに或る金額以上は安くする。其の差異も組合に依つては随分多いのがある。第四には貯金が一般に少い、而も貯金を奬勵する方法を講じて居らぬ組合が澤山ある。

是等から臺灣の信用組合を觀て、固より觀た組合の中には或る事項に付て一二の除外もあり又程度に於て濃淡があるが、共通した事實と認めたのである。是等の事項は産業組合の特色を發揮し其の本旨を徹底せしむる爲めに、どうしても積極的の態度を執らなければならぬ事項のみである。即ち區域內の住民は出來る限り多く網羅する。殆んど全部加入せしむる。何時でも新加入が出來るやうにして而も新加入に對しては出來る限りの便宜を與へ、組合としては常時之を奬勵する。組合の效果は組合員全般に及ばなければならぬのであつて、貸付金にしても組合員は五百人在つて其の中三百人は組合から金を貸りて居るが、殘りの者は組合から借りる必要の無いものなれば結構なれど、恐らくは借りたいけれど貸さないものも多數あるだらう。それでは組合本來の趣旨に反する。殊に利子に差別を設け金額の多いものに利子を安くするのは産業組合としては絕對に避くべきことで、普通の銀行は面倒な仕事をせずに餘計に儲ける方法を講ずるのが特色であるが、産業組合は面倒臭い世話をして餘計金を儲けないのを特色とすべきである。さう云ふ銀行と同樣な趣旨で組合を經營するならば寧ろ産業組合とせずに普通銀行とした方が好い。貯金の如きは當然吸收しなければならぬ。組合としては貯金は少し面倒を忍んでも種々な方法を設けて吸收する。私の觀たものでも或る一二の信用組合は色々の貯金の方法を設けて盛んに奬勵して居られました。貯金の吸收に付ては內地でも随分面倒をやつて居るが之は大いにやる必要がある。私は私の觀た處では臺灣の信用組合は産業組合として其の特色を發揮する爲に特に力を盡さなければならぬ重要なる事項を甚だ疎かにされて居られると思ふ。これは今後大に考ふべき事で、勿論先程も申した通り組合の實力がなければ組合の特色と任務を完全に盡すべき働きは出來ぬ。然るに臺灣の信用組合は――農村の信用組合は現在の狀態が地方に依つては随分悲慘なものもある樣である。資金は固定し貯金は入らないと云ふ狀態で事業の分量、剩餘金の額等に於ては實に感心する程なのであるから――勿論臺北臺南等の市街地信用組合も經濟界の變動の爲めに相當お困りの事は確かであらうが、然し市街地の一般組合は私の所謂實力が相當充實して今後積極的の行動を執つて行くに不都合のない組合と思ふ。私はさう云ふ組合は現在の時期が、右に廻りて産業組合の特色を發揮する道路に出ようか、或は今のまゝ眞つ直に歩いて其の特色を盡く失墜しようかと云ふ分岐點にあるものと思ふ。若しも臺灣の信用組合が此の際斷乎として右に廻りて産業組合の特色を發揮する爲めに積極的行動に出られたならば、恐らくは臺灣の信用組合は內地の市街地信用組合に對し模範を示す樣になるのであらうと確信する。此の點に付て組合の理事者諸君は大いに決意を要するとこ

ろ又指導奬勵の局にある當局の諸君も考慮せなければならぬ重要事と思ふ。一體臺灣に於ては、產業組合の精神が組合員に普及してゐるかどうか。殊に本島人の組合員はどんなものか。組合員は出資に對して澤山に配當さへ貰へばいゝと云ふ簡單なる考を持つてをるものが、組合員の多數であらうと思ふ。內地人の組合でもさう云ふ組合員は決して少からぬであらうと思ふ。私は信用組合の理事者諸君及組合員の有力者諸君に伺ひたい、何の爲めに政府は產業組合に對して所得稅と營業稅を免除する恩典を與へ其の他諸般の保護をなしてをるかと。產業組合が產業組合の特色を發揮し得ぬなれば、此の恩典と保護を辭して普通の營業行爲をなす銀行を經營するがよろしい。私は理事者諸君が此の顯著なる事項を御承知ない筈はなからうと思ふが、組合員が組合精神を理解せざる結果、已むを得ずして組合の特色を發揮すべき經營方法をなし得ざるものと信ずる。故に今後はよく總督府縣郡等の當局者と相談して組合員に對して組合的精神の普及に努むると同時に、組合の事業經營の方針をして私が申した產業組合の特色を發揮し積極的行動をなすに背反する事項を改める樣にせなければ、臺灣の信用組合は經濟組合としての價値を失ふ樣な虞れがあると思ふ。

それから購買組合、販賣組合、利用組合等の事業組合はその設立と活動が今後段々必要となるでありませう。之は農會の關係或は他の團體の關係もあり、又普通の信用組合と違ひ、其の經營の方法はなか〳〵困難であつて商業的智識、工業的智識の必要あるは勿論、利用組合に至りては機械に關する智

識、建築に關する智識も入用であつて、信用組合の樣に正直一方のみで成功するものでない。されば無暗にその設立を勸奬する事は考へ物で、私の意見では先づ以て村や郡に於いて此の地なれば立派にやつて行けると云ふ場を選び又其の事業を選びて、所謂模範的の事業組合を設けて當局が充分なる指導奬勵をなして經營せしむるのがよろしいと思ふ。臺灣に於ても信用組合ばかりでなく事業組合が出來て各種の組合併び進まなければ一般民衆の產業及經濟の發達を企圖することは出來ないと思ふ。或る人は臺灣人には其の性格上產業組合と云ふ樣な組織は不向きである。協同協力とか或は相互自助とか云ふ仕事は適當せぬと云ふ事を云うてをられたが、私は首肯することが出來ぬ。臺灣に於ても一大なる家族間の團結と云はうか、同姓の團結が相當に行はれてゐると申します。又一面に臺灣に過渡時代の制度として一種の地方自治制が敷かれ其の成績を擧げしめ、他日更に完全無缺なる地方自治制を施行しようと云ふ事になつたのであるから、さうすれば產業組合の發達と地方自治の發達とは兩者相離すべからざる密接な關係があるので、產業組合の成功には協同一致と小異を捨てゝ大同に合する犧牲的精神の發揮とが必要である。地方自治の完成にも矢張りこの事は缺くべからざる要素であるから、萬一產業組合は本島人に向かないとなれば地方自治も到底行はれる見込みはないと云ふ結論に達すると思ふ。要するに組合的精神の普及を地方民衆に向つて普及徹底せしむると云ふ事によつて兩者共に其の働が完成さるべきものと思ふから、此の點に向つて特に努力することを要する。

更に、信用組合聯合會の問題に付て一言すれば、之は勿論必要である。但し之は各縣に於て聯合會活動の要件は其の區域內に於て資金の需給に就き、有無相通すると云ふ條件がなければならぬ。甲地方は金が剩る程あり、乙地方は少ない。甲地方は或る時期に金が入用だが、乙地方は他の時期に金が要ると云ふ樣に、聯合會所屬の組合で有無相通する要素が備はるを第一とする。さうして聯合會を造ればなるべく聯合會に金を預ける。僅かの利子の高低を問題にして聯合會を利用せない樣では聯合會の經營は甚だ困難である。內地でも仲々此の問題は六ヶ敷しいので地方の組合長が地方の銀行などと關係がある爲に仲々餘裕金を預けない。私も自ら縣の信用組合聯合會を作つて十年餘り其の常務理事をやりました。貸付金は信用組合に貸したものは必ず返すから安心なので、唯困つたのは貯金が出來ない。組合は惡くないが地方の銀行との關係があり又聯合會が地方の銀行と競爭して利子を高くすれば聯合會の經營が出來ない。恰度組合員が組合的精神が判らなければ組合の活動が出來ぬ如く、聯合會も信用組合長始め理事が聯合會に對する充分なる了解がなければ聯合會が決して發達しないと云ふ事になる。是等の點より見て臺灣に於ての信用組合聯合會は急がば廻れで無暗に急いで組織する事は考慮すべきである。併し臺灣に於ける產業組合中央會は一日も早く設立すべきものであると信ずる。現に臺北州にも產業組合がある。臺南州にもあるし、又舊嘉義廳區域にもあつて、是等は恰度內地の中央會で云へば支會に當るべきものだ。臺灣の法律では產業組合中央會と云ふものは認めてをらぬが

差當り隨意組織卽ち各產業組合の申合せに依つて臺灣產業組合中央會を設立すれば宜しい。さうして適當時期に律令を改正して法による組織にするのである。將來臺灣に於ける產業組合の普及發達、現在の信用組合を今後適當に振興するには其の方針はどうする、組合員に向つて組合的の精神の普及徹底を圖る方法は如何、事業組合の設立は如何なる方策によるべきや等、攻究すべき問題は澤山ある。勿論總督府、州、廳、郡等の官廳でも指導も奬勵もされましやうが、產業組合は組合員等が一の自治的機關を設け官廳と兩々相俟つて產業組合の將來に向つて力を盡すと云ふことが確かに必要なことゝ斷言します。であるから產業組合中央會は臺灣に於て成るべく早く此の設立を實行する事が可からうと思ふ。而して總督府と中央會とは提携連絡して——總督府に於ける產業組合の行政は事業組合に關しては殖產局の商工課、信用組合に關しては財務局の金融課と分れてをりますし、又農會には共同購買の事業があるのだから、中央會としては各方面と聯絡步調を取りて臺灣產業組合の將來の發達を圖る中樞機關として働かなければならぬと思ふ。中央會設立の問題は當局に於ても餘程講究が進み相當の成案もある樣に承つて居るが、私は一日も早く其の設立が實現せられんことを希望致します。

以上は臺灣の產業組合を觀て、其に對する私の意見の概要を極めて遠慮なく申上げたのである。臺灣の產業組合、主として信用組合は其の多くは大正二年の律令發布以來出來たものであつて、設立以來僅か十年經つか經たぬ裡に今のやうに發達したのは總督府初め、州、郡の當局の指導獎勵が宜しき

を得た結果と、組合理事者諸君の熱意ある努力の賜と思ふ。私は之に向つて非常に敬意を表します。而して私は今後五年乃至七八年の間は臺灣の產業組合がどうなるか、最も面白い時期であると思ふ。今後五年乃至七八年間に於て此の事業の分量多く、剰餘金の多き、基礎相當確立したる信用組合が、適當に自己の進行の方針を轉換して產業組合の特色を發揮し、本來の任務を完成するやうになられたならば、啻に臺灣の爲めに祝福するのみならず、內地の產業組合の模範となり得ることゝ思ふから、私は衷心より臺灣の信用組合の眞正なる成功を期待して止まぬものである。どうか臺灣の將來の發達上、又地方自治の完成の上から申しても、產業組合を充分に發達せしめて而も他の方面から……產業組合以外の種々なる金融及經濟機關等から非難論議を聞かずして、なるほど產業組合は特色ある働きがある、あれでこそ本當の產業組合である、あれでこそ國家の保護特典に酬ゆるものがあると賞揚を受け、又內地の先進たる組合に向つても模範となる樣に、直接間接關係ある諸君の御骨折りによつて進步せしむることを終りに望んで御願して置きます。

——「產業組合」大正十一年八月號——

二、朝鮮金融組合を視て

本篇は昭和二年八月朝鮮出張の際、二十二日京城郡市金融組合聯合の招待席上に於て述べたる感想談にして朝鮮經濟協會發行の「金融と經濟」に掲載したものである。

私は只今御紹介をいたゞきました產業組合中央會の千石と申すものでございます。今回此方へ參りまして先達てから一週間ばかり金融組合や聯合會の模樣を承り、又地方の組合も見せていたゞきました。今日は金融組合の業務に直接携つてをられる皆樣のお集りの席で色々お話を承ることの出來るのを樂しみに參つたのでありますが、私に何か今回の視察に付て感想を述べよとのことなので、口開きの意味で聊か感じたところを申上げ、また何か御質問でもありましたならば、內地の人間として思ふところをお答へもいたして見ようと存じます。考へやうによりますと此方に永く居られる人々よりも何も色付けられない白紙の頭を以て見た方が或は公平なお話が出來るかも知れません。

金融組合を見て第一に感じました事は組合の制度、經營の方法、事務の整理、帳簿書式等總てが朝鮮の實狀に極めて適合し、微妙なる働きをして居ると思ひました。短い期間に非常に好成績を現はしてゐる原因は、組合の仕組が朝鮮の組合として最も仕事がうまく運べるやうに出來てゐる點にありますす。勿論法規上の理論などを云々すれば色々矛盾したところもあり亦現今の時勢に全部が適合してゐるかどうか解りませんが、そんな空理空論のみでは斯の如き仕事は出來ない。內地のやうに自治的觀念が發達してゐるところでも自由と云ふものを穿き違へて粗漫なる仕事をする向さへありますので、過去の發達の經路から申して朝鮮の金融組合は現在も又將來……それは永遠にとは云へませんが社會狀態や民衆の思想が格段に變化する迄は……現狀を以て適當と存じます。組合の規則が定められた當

初から今日まで漸次時勢に順應して改正し來つて、當局の措置は理論的に偏する事なく實情に最も適合したものと感服してゐる次第であります。而して其制度施設がよく圓滑に運用され來つた點に於て最も力強い根柢をなしたものは理事の官選と云ふことであります。これは今日五百有餘の組合と十三の聯合會が殆んど一身同體の如く一糸亂れざる活動を保つてゐる所以だと思ふのであります。この官選理事の制度がまことに微妙なる働きをして監督官廳の意思はよく徹底し、又聯合會の指導の通り至極圓滑に業務を遂行する事が出來るのだと感じました。內地の產業組合に於ても、近時組合業務の範圍、分量等が著しく殖えて來ましたので、組合の首腦者が形式的に名だけ出してゐたやうな從來の遣方では到底滿足されなくなりまして、事務に明い者を選んで專務理事を置いて仕事をするやうになつて參りました。

蓋し組合業務の經營には其の仕事を充分委せるに足る人材を得る事が最も肝要でありますが、朝鮮の金融組合は其の最も重要な人に官選理事を以て當てたと云ふことは組合今日の隆盛を見た根本の素因だと思ひます。私はさやうに確信するのであります。特に村落金融組合では理事中心主義を以て進み、且理事が主となつて各組合員の信用調查までもされると云ふ事でありますが全く感心させられた次第です。內地の產業組合は一つの組合で一萬數千人からの組合員を抱擁して居りますが、理事が先に立つて一々信用調查までもすると云ふやうなことは到底望めない事です。兎に角、理事が中心となつて信用調查まで遂行すると云ふことは組合業務經營上如何に強味か知れません。畢竟斯の如きことも官選理事なるが故に出來るので內地のやうな制度では到底望んでも不可能なことであります。金融組合の制度が朝鮮の實狀に適合するやう官選理事の働きを徹底させたところに最も特色があると觀察したのであります。

× ×

尙業務の遣方、事務の整理の點に關しては精細なる規定が設られてゐて、五百有餘の組合と十三の聯合會は步調を揃へ一齊に動く樣に出來て居りますが、此の特長は又內地では見られないところであります。殊に道廳の監督は事業計畫及經營の監督を主として居られる樣でありまして、之亦內地の產業組合では見られない點で一定の事業計畫と豫算に基き嚴重なる監督がなされる。卽ち豫定と實行の結果とを照し合はせて次の事業計畫を樹ててゆくやうに承りました。全く痒いところに手の屆く遣方であります。現在內地の產業組合ではこんなことはいたして居りませんし、又行はすことも不可能でありませうが、斯くの如く完備したる制度は內地の組合監督者や指導者達に相當參考になると考へます。でありますから朝鮮の方々が內地を視察に行かれるのも無論よいことですか、內地の組合監督及指導等の衝に當る者が朝鮮に來て此の實狀を視る必要のあることを感じさせられたのであります。そこで朝鮮の組合は當分現狀維持を以て進むことに何等異存を挾まないのであります。

朝鮮の方々が內地の所謂優良組合を視て、組合的精神の普及、役員の組合に對する働き、組合と組合員との連絡がよくとれてゐること、やかましい監督とかうるさい規則が無くてよく活動してゐることと等を印象づけられて、朝鮮の組合が矢鱈にこむづかしいと謂はれる人もある樣ですが、內地と朝鮮とは自ら其處に異つた事情があつて、內地のことを直ちに朝鮮に移し植える必要はありますまい。寧ろ不良な組合も觀察されて自己の立場に確信を得られることが肝要でないかと存ずるのであります。

× ×

次に金融組合の中央機關に付て少しく申述べて見ませう。ところで組合とは一體何か？ つゞめると經濟上の弱者の爲に利益の增進を圖る機關であるとも云へます。產業組合の眞の意義は極めてむづかしい。徹底した解釋をすると當局からおしかりを蒙るのでありませうが、兎に角產業組合は現在の資本主義的經濟組織を利用する事が出來ず、また假令それを利用し得ても、それによつて自己の利益を增進する事の出來ないものゝ爲の機關であつて、一般民衆に對する經濟機關たらざる事は確であります。銀行は國民の金融機關だと申しますが、それは或る一部分の階級の利用機關で、多數民衆の機關たるの實に添はないものであります。つまり預金はするが貸出はなか〳〵容易なことではありません。又生產物を販賣するにしても必要品を購入するにしても中間に介在するものゝ徒に多い現在のやうな經濟組織では多數民衆の利益が犧牲にされなければなりません。朝鮮といたしましても產米增殖

計畫が實現され、又肥料購入と云ふやうな事に付て考へて見ましても、產業組合の如き共同機關があつて處理するに非ざれば、どうしても中間商人の手にその利益を壟斷されなければならないでありませう。それで現在の如き經濟組織に於ては金融の方面、販賣、購買の方面に於ても中產以下のものは假令其の各機關を利用してゐても自己の利益は增進されてゐないのが普通であります。かゝる階級のものが自衞上特種な機關を組織して働いてゆかうとするのは當然の歸趨であります。

玆に必要な問題は、內地の產業組合に於てもさうでありますが、朝鮮の金融組合に於ても其の活動の分野を確立することであります。產業組合乃至は金融組合が其の自らの領域を超えて普通銀行の營業に類する事までを眞似る樣な事になれば、最早組合としての意義がなく其の存在の價値を失ふものであります。元來組合は所得稅、營業稅を免除され又低利資金の融通を受ける等國家の特殊なる保護を受けて居る所以は組合の特殊なる使命によるものでありまして、普通の商賣的な營業をやるものならば何も國家の手厚い保護を加へる必要を認めないのであります。內地に於ける市街地信用組合の如きも、これまで我儘勝手の遺口が多かつたのでありますが、今春の財界恐慌以來大いに反省し、產業組合主義に據らなければならぬことを自覺して參りました。組合はどこまでも產業組合主義で進む、產業若し組合主義を以てやつてゆけないものはやめさせると主張してゐます。さうでなければ組合として永遠の發達は期せられない。此の點から考へまして組合員外の預金は寧ろ廢止すべき性質のものなの

であります。組合員外の預金を勝手に扱ふとなれば普通銀行と同じやうなものになります。內地の產業組合では市街地信用組合は別として一般に組合員外の預金は取扱ひません。僅に組合員の家族や公益團體の預金を扱ふに止めてゐます。組合が相互主義に立脚する本來の使命から見ても組合員外の預金は考へもので、組合はどこまでも組合主義を超脫しないやうに戒めたいものです。神戶、東京の二三信用組合が過般の恐慌に際して取付を喰ひましたが、それは多く組合員外の預金者であつたので、組合の理事者も組合員外の預金を扱ふことの危險を直感したわけであります。

× ×

朝鮮の金融組合では貸付の金額に制限がおいてありますし、又村落の金融組合に在つては確乎たる貯蓄機關がない關係から組合員外の貯金も仕方がないとされてゐる樣でありますが、都市の金融組合に付ては昨今大分問題が出て、都市組合必要の有無の如きが云々されてゐると聞きましたが、これなどは隨分非常識であると思ひます。然しこんな非常識な問題が起るのも、つまり組合が組合たるの領域を超えて仕事をしてゐる結果ではないかと思はれます。それで都市金融組合が本來の組合主義に據つてゆかうとすれば組合員外の預金は寧ろやめた方が理論に叶ふわけであります。

又朝鮮の金融組合は區域が廣く且つ交通機關が整備するに至らないので、貸付上の經濟には一段と手數がかゝり經費がかさむと承りましたが、元來組合の經營には經費のかさむのが當然なのでありま

す。貸付けてから回收するまで微に入り細に亙つて面倒を見てやるのみならず、家庭上の色々の相談にも乘つて世話をしてゆくのでありますから經費のかさむのは仕方がありません。でありますから徒らに經費を制限することは組合の活動力を削減するものであります。又經費がかさむからと云ふので小口の取扱を避けて大口の貸付をやると云ふ位なら寧ろ組合を廢して銀行にでもした方がましであります。もと〳〵組合の働きと云ふものは一年中組合員に利用されるやうになつて居り有形無形に利益を受ける點が多いので、何も餘計な配當などをしなくとも存在の意義は充分にあるのであります。でありますから組合は損失をせない程度に於て經費を使ひ出來るだけ組合員の利益を增進することを圖らなければならないのであります。組合の貸付業務に於て、滯貸を生ずるのは小口のものには少く其の多くは大口の貸付に見られる現象でありまして、よし小口の滯貸があつたにしても、それは組合當事者が積極的に努力すれば容易に整理の付く種類のものであります。又貸付限度の擴張なども唱へられてゐるやうでありますが、そんなことでは全く營利本位に墮するもので組合存立の精神に反するものと云はなければなりません。而して中央機關を造るにしても、それを好機として他の方面から非難攻擊をうけないやうに、組合本來の目的に向つて軌道を外れないやうにする事が大切であります。中央機關の問題に付此際銀行などの強い反對を受けることは不利益でありますから、組合は組合として活動すべき分野をよく考慮してなるべく圓滿に進捗を圖ることが賢明な策だと考へるのであります。

× ×

さて中央機關を如何にすべきかと申せば、第一に全鮮的のものでなければならない事は勿論でありまして、中央機關の必要の有無は最早論外の沙汰で只時期の問題であると思ひます。それも出來るだけ早く運ばさねば駄目で、期の熟するのを待つと云ふやうななまぬるい態度でなく、組合と聯合會が一齊に起つて輿論を喚起することが設立の最大要件であります。而して設立に付き問題となるのは出資でありますが、第一、政府の助を仰ぐ必要があります。政府からはどうしても全出資額の六七割位は出して貰つて十年乃至十五年は無配當の恩典を與へて貰はねば、組合だけの自力では只今のところ甚だ困難のやうに察せられる事であります。業務上のことは從來金融組合と聯合會との間に專屬取引が行はれ來つた大なる强味があるので心配はないと思ひます。

次に中央機關を指導機關と金融機關と別個のものに分立さすか、それとも又兩者を打つて一丸となしたるものとするかに付き考へて見ますと、朝鮮の現狀としては兩者を一つに含めたものとすることが適當のやうであります。內地では指導機關たる產業組合中央會と金融機關たる產業組合中央金庫とが分立されてゐて、それに全國購買組合聯合會と又最近には大日本生絲販賣組合聯合會などが出來て一般產業組合の中央機關としての機能をなして居りますが、朝鮮では各道の金融組合聯合會が、これまで組合の金融機關として世話をして來たばかりでなく指導方面に付ても周到なる施設をして順調な

る發達を遂つて來た關係から、中央機關の如きも金融機關と指導機關とを併せ一つとしてゆくことが好都合ではないかと考へます。

× ×

內地の中央金庫はこれまで三年間の成績に徵しまするど常に預り金が貸付に超過して居ります。これは所屬產業組合が中央金庫を利用することの薄い結果でありまして遺憾に存ずるのであります。これには色々事情もありますが、朝鮮に於ける金融組合聯合會間に行はれてゐる專屬取引と云ふものがないことが最大の原因であります。今後組合や聯合會が中央金庫との專屬取引の必要を自覺するやうになれば中央金庫の利用は自ら增進されることだらうと思ひます。たゞこれまでの成績のみに徵し中央金庫の事業を非難される向もある樣でありますが、それは此の間の事情を察せないものでありまして、朝鮮の金融組合と各道聯合會との樣に畫一統制されてゐるものとは餘程事情を異にしてゐるので今日のところ止むを得ない次第なのであります。此の點から見ますと、將來朝鮮に於て金融組合の中央機關が設置されて十三の聯合會が一體となつて進むならば、これまで以上に業務の利便を增し發展を致すことゝ信じます。また朝鮮は利子が高いと聞いては居りましたが、實際を見ると全く內地の比ではありません。こんな高い利子は漸次引下げらるゝことでありませうが、無理に引下げる必要もない。或る程度の緩和を見るに至ればそれでよいのではありますまいか。

× ×

中央機關が出來たならば資金調達の手段として積極的に預金を吸收する必要がありますが、又一つの方法として債劵を發行して資金を得ることが出來ませう。斯く考へて見ますと內地よりも容易にことが運び餘り心配は要らないかも知れません。又中央機關が出來たからと申して殖產銀行が遽に他人扱ひにも出來ますまいから普通の借入位は辨ぜられませうし、又考へやうによりますと、內地の中央金庫の規則を改正して其の餘裕のある資金を朝鮮の中央金庫に融通することも不可能なことではありません。又臺灣に產業組合の全島聯合會と云ふ樣なものが出來た曉には、これまた內地の中央金庫より餘裕金の融通をなして、我國全領土の民衆の經濟的融合を圖る事も有望だと考へます。でありますから、總督府の事情さへ許すならば、一日も早く實現されたいものであります。

× ×

以上甚だとりとめもないことを申上げまして御淸聽を煩はしたことを感謝いたします。皆さまからも色々御高見を承つて參考に供したいと考へる次第であります。

——「產業組合」昭和二年十二月——

第二 隨想

一、弱き者汝の名は消費者なり

——時事漫筆——

△「弱き者汝の名は女なり」と云ふが、余輩は「弱き者汝の名は消費者なり」と云ひたいのである。然しながら消費者は多く婦人によりて行はるゝ事を考ふれば、「弱き者汝の名は消費者なり」は「弱き者汝の名は女なり」と、同じ意味になるので、やはり女はいつまでも弱きもの、消費者の弱いのは女の弱い爲と云ふ結論に達する譯になる。

△弱き者なる女も、近時は中々强くなりて「弱き者汝の名は男なり」と云はるゝ場合もある樣になつた。新しき女と稱せらるゝ連中は、男などは眼中に置かざる强がりやであるが、どうも其の新しがり其の强がりが、餘り役にも立たざる方面にのみ發揮されて、家庭の重要問題なる消費經濟の方面などには、それが發揮されないのは、甚だ惜しむべき次第である。尤もこれ等の新しがり屋、强がり屋は家庭と云ふ樣なことは眼中にはなく、放浪主義の主張者でありとすれば、發揮する必要もないのである。

△數多き消費者、何が故に弱きや、烏合の衆は數多くとも勢力とはならない、勢力は組織的の運動によりて初めて生ずるものである。商賣人は同業組合なる組織によりて、初めて生ずるものである。商賣人は同業組合なる組織によりて、價格の協定を行ひ、自分達の利益……多くの場合には正當以上の利益を追求する。大なる生産者は、更により大なる組織によりて利益を保證なし、生産の制限、生産物の賣込までもやる。尤も同じ生産者でも農業者の様に無勢力で、問屋や仲介の爲めに自由自在にされてをる、「弱きもの汝の名は農業者なり」と云うてやりたいものもあるが、これは特別例外である。

△彼等が組織的行動をなして、眞劒に自分達の利益を圖りつゝあるに反して、消費者は烏合の衆である。無組織である。故に數ばかり如何に多くても、到底商賣人に對抗する譯には行かないのである。大デパートメントストーアの、マアケットの美名に誘惑されて、ローズ物を有難く買うてきたり、廉買の看板に欺かれて、殘物を賣り付けられてをるのである。都市に於ける多數の小賣業者に、其の生活を保證してやつてをる大なる慈善者である。

△物價が騰貴しても、多くの消費者は、之を運命と觀じて騒がず鶩かず、何時も落ち付き拂つて、こんなに高くてはやりきれん位ですましてをるのは甚だ感心すべきことであるが、其以上感心なのは商賣人や、生産者側の牙城たる實業組合聯合會とか、商工會議所から物價調節運動を初めて下さつたことである。自分の頭の上に止まつた蠅を、他人に追うてもらふ様な譯で、實に恐縮千萬と申すべく、

消費者たるものは隨喜の落涙をなすの價値があるのである。

△或る皮肉屋は云ふ。彼等の物價調節運動の目的は、敵は本能寺にある譯で、何も國民生活の爲とか消費者の爲めとか云ふのではない。安價の物を生産せなければ、海外輸出が益々減少する。所謂實業家連はやりきれない。そこで先づ以て物價の調節を騒ぎたて、少しでも低落すれば、今度は勞賃の低落とくる譯なので、要するに自己本位であるのだと。そんなことはどうでもよいとして、今回の物價調節運動が、どこまで徹底するか、實に近來の見物である。加藤内閣の試金石、線香花火的にならない様にと、消費者の一人として余輩も冀望するのである。

△然しながら更に考へ直して見ると、一體現在の經濟組織に於て……資本主義經濟組織と云はうか、金權萬能の經濟組織と云はうか……物價調節が、消費者が之はありがたいと徹底するまでに、やり得るものであるかどうかと云ふことが、根本的の疑問なのだ。余輩は、これが出來たら寧ろ奇蹟に近い成功で、普通の努力では出來ないのが、當然だと思ふ。故に今回の物價調節が、たとへ少しでも效果が顯はれ、壽麥代が低下され……質と量の低減なしに……湯錢が一錢でも安くなれば大々的成功と謳歌すべきであつて、更に家賃も下り、味噌、醤油、薪炭、砂糖類までが下るとなれば、實に善政の極致として、現内閣に感謝すべきである。加藤内閣は其の非常なる努力と、時の力とによりて、之を成功せしむるの自信を有してをられるのだらうと、余輩は期待してをる。

△されど消費者たる者は、徒らに以上の御世話をのみ當てにして、どうにかしてもらへるだらうと思つてをつては駄目であつて、自力によりて消費經濟を合理化せしむる、勇氣を起さなければならぬ。多數の消費者が、組織的の行動を取るときは絕大なる威力を發揮するに足るべく、而して其の方法は產業組合法によりて、消費組合の性質を有する購買組合を設置するより外にないのである。

△消費者の組織する消費組合が弱き者なりし消費者を强き者たらしめた事例は、英國を初めとして、歐洲諸國に於て示されてをるのだが、顏の色が變つてをるからと云うて、我が國民にやれないことはないのである。なんと云うても、英國は消費組合の先進國であるが、其の發達は弱き者なりし婦人の運動によるところが多いので、消費組合婦人協會の活動は、大に見るべきものがある。我國の消費組合も先以て婦人の消費組合運動から初めるにあらずんば、其の發達はむづかしからうと思ふ。消費の多くは婦人によるので、其の婦人が消費組合を理解し、此の組織によるにあらずんば、到底自分達の經濟的生活、社會的生活の改善向上を期圖することが出來ないと云ふことを、自覺するの時が到達して、此に初めて「强き者汝の名は消費者なり」の時期が來り、同時に經濟的に目醒めたる婦人は、眞に新らしき、眞に强き婦人となるであらうと思ふ。（九月十二日稿）

——「產業組合」大正十一年十月號——

二、節約した金はどこへ

△物價調節に關する十九項目の政策を、政府が發表されてより、關係諸官廳の當局は、之が實行方法について、盛に攷究せられ、又盛に活動を開始せられた。內務省を筆頭に、農商務省、文部省何れも之に關する經費を得られたとのことで、或は消費節約の宣傳を全國的になすとか、或は消費經濟の展覽會や、講習會等を主要都市で開催するとか、仲々大車輪の活動である。產業組合中央會も亦其の御裾分けに與つて、農商務省より相當の經費を頂戴して、六大都市に於ける消費的購買組合の奬勵に付て、活動することになり、講演會の開催やら、小冊子の配布、ポスターの配布などをやることになつたのは、實に結構なことで是等の活動は必ずや其效果を顯し、消費經濟方面の改善が大に行はれることであらうと思ふ。

△水野內務大臣は、過般大阪を初め名古屋其の他に於て、消費節約に關する講演をせられた。講演中に消費節約の意味を說明せられて、消費節約と云つても、徒らに消極的節約を云々するのではなく、不健全なる消費を節約すべしと云ふのであつて、つまり浪費を警むると同時に、大いに積極的消費節約を高唱するのだ。而して此の積極的消費節約とは、卽ち生產力を增大することで、而も今日の如く高い品物を少く生產すると云ふのではなく、安い品物を多く生產するにあるのだと、論ぜられてをる

が、之は余輩の全然贊同するところ、とかく節約などゝ云ふと、無暗に消極的になりたがるもの、地方に於ても此の內務大臣の講演の趣旨を體して、消費經濟方面の改善に努力せられたいのである。

△尙大臣は浪費增加の一例として、酒と煙草の消費激增のことを說かれて居る。それによると戰爭中即ち大正三年中の內地のみの酒の消費額は四百二十六萬六千三百五十四石、之が國民一人當り八升九合であつたものが、戰後即ち大正八年になると、六百七十八萬二千百七十五石、一人當り一斗一升九合、又卷煙草の消費高は戰時には七億六千八百七十四萬四千七百本、一人當り百四十五本であつたのが、戰後には十七億九千九百五十萬本、一人當り三百十七本と云ふことになつてをるとの事だ。之を見ると國家に對して澤山の納稅をしようと云ふ愛國者が無暗に增加した譯である。

△全國を通じて行はれてをる、消費經濟改善の運動は、必ずや相當の效果が揚るにちがひない、若し效果がないとすれば、政府が澤山の金と時間を使ひ、國民も亦講演だとか、協議會だとかに、多くの時間と相當の金を費したることが、一の浪費となりて終る次第である。故に其の效果が揚ることは確かであるとして、其の結果は節約せられたる丈の金が、貯蓄される譯である。宣傳だけでなく、同時に浪費と思はるゝ、節約なし得る方面に對しては、節約を直に實行し、剩し得たる金は貯蓄せなければならぬ。確かに之が各地に於て行はれてをるのであると思ふが、さて、此の貯蓄すべき金は、如何に取扱ふべきやと云ふ問題である。

△東方時論と云ふ雜誌の九月號にこんなことが書いてある。「節約した、金が殘つた、銀行に預けた。此の銀行は、米が高い、高いとこぼしてる目の前で、石井定七とやらに二千何百萬圓と云ふドエライ金を貸出した。石井はその金で米の大々的思惑をやり、米の値段を操つて貧乏人を泣かせたではないか。自分らが、血の出る思ひをして殘した金が、めぐりめぐつて、三度の御飯をつりあげるなどゝは餘りに微妙な經濟的循環ではないか。」相當に皮肉つたる書き方ではあるが、又盾の一面を現した理窟である。地方に於て節約した金の、取扱ひ方に付ては此の邊の事實を考へて見るのも、決して無益なことではない。

△郵便貯金は最も確かな、安全な方法である。簡易保險に加入することも賢明なるやりかたである。さりながら地方としては、地方資金の缺乏と云ふことを考へなければならぬ。零細なる中小產者階級の貯金が、集つて大なる額となり、それが都會に流れ入つて、資本家階級の利用するところとなる。誠に奇特のことゝ云ふべきであつて、或る意味の社會的奉仕であらう。さうして地方には資金がないと泣言を云うて、低利資金の供給を御願ひする。眞に御人好しの至り、これでこそ天下泰平なのである。信用組合や信用組合聯合會はなんのためか、產業組合主義の經濟組織によりて、中小產者の金融問題を獨立せしむることが、出來ないものであらうか、どうか、大に考慮を要するのだ。

△現時の場合に於て、產業組合の方面として、物價調節運動の爲に努力するとせば、敢て他の方面で

やつてをる、消費節約などの提燈持の宣傳をなす必要は更にないのだ。單刀直入に其の結論を示し、之を實行することを努めればよろしい。然らば其の結論とは何かと云ふに、一つは消費的購買組合の發達を圖るが爲に、此の必要を宣傳し、既設の組合を改善し、又地方によりては新たに此の組合を設置すること。今一つは消費の節約により剩し得たる金は、之を信用組合に貯金し、又信用組合は之を聯合會に貯金することとである。

△信用組合は、地方の銀行に比して少しく利子が低いとか、遠方で不便で送金しにくいとか云うて、組合員が節約したる金を、地方の銀行に預金したり、組合は又聯合會に預け入れをせざる樣では、到底地方資金の潤澤は期待せられず、いつまでも、血の出る思ひで貯蓄した金を、資本家連中の御用に提供して、自分達は生產に要する資金の缺乏を感じてをらなければならぬ。今回の消費節約の宣傳、否實行によりて得たる金も亦、此の愚を重ねる樣では、消費節約は、地方の資金を枯渴せしむる結果となるのである。產業組合當事者は、大に此の點を顧慮して、此の際節約によりて生じたる金を、全部信用組合に吸收することに、全力を盡さねばならぬ。

△同時に、地方では、物價調節が、地方の農村に及ぼす影響を攻究して、之に對する對策を產業組合で實行することが、勞働能率の增進とか、生產物の販賣に對する中間機關の排除とかの如きは、それの重なるものである。（十月十日稿）

——「產業組合」大正十一年十一月號——

三、豐年の悲哀と產業組合

△豐年の悲哀とでも申すべきか、農村は豐作に對して祝悦なしたると同時に、米價の低落に對して苦痛を感じ初めたのである。六千二百六十三萬八千石の農商務省發表の第一回米收穫豫想高は、少しく豐作豫想を裏切られたやうではあるが、之を昨年の實收高五千五百十八萬二千石に比すれば約一割三分五厘餘の增收であつて、平年作の五千七百萬石に比べては五百七十二萬石、約九分七厘の增收に當つてをる。

△農商務省の第一回豫想によりて、十二年度の米の需給關係はどうなるかと云ふと、之に付て帝國農會は左の數字を調査發表してをる。

帝國農會調査大正十二年度米需給豫想（單位千石）

大正十一年度の需給	
十年端境期に於ける前年末よりの繰越米	八一八〇
十年產米高	五五一八一
十年末より十一年中臺鮮米の移入高	三二〇〇
同外米輸入高	三五〇〇

以上合計	七〇〇六一
十一年端境期迄消費高	六三二七〇
大正十二年度の需給	
十一年端境期以後に繰越すべき高	六七九一
十一年産米高	六二六二八
十二年度臺鮮米移入高	三〇〇〇
以上合計	七二四一九
平年消費高	六三二七〇
十二年端境期以後に繰越すべき高	九一四〇

右に依れば來年端境期には九百十四萬石の持越米を見る計算なのである。

△東洋經濟新報社の調査に依れば、來年の端境期の持越米は八百九十萬石となつてをる。帝國農會の調査に比較するときは需給豫想に多少の差異があるが、持越米の高に至つては僅に二十萬石の差あるに過ぎずして、要するに十二年度には米が豐富であると云ふことは、明白なる事實である。

△豐年に於て米價が崩落することは、農家の經濟を脅威し、農家をして豐作を呪ふに至らしむるは、極めて當然のことゝして、萬人の首肯するところであらうと思ふ。其の結果として我國食糧政策の根

柢を破壞するに至るべきも明らかすぎることである。さなきだに近時の米價は、其の生産費すら償ふ能はざるの狀態にあり、一面に於て、農村の諸事昔日の如き情勢にあらざるの今日、若しこれ以上に米價の崩落することあらんか、農村は益々寒心すべきの結果を見るに至るべきである。

△十月二十一日より四日間開會されたる帝國農會の總會は、米穀法運用に關する建議案を可決し、本年の如き過剩米の生ぜし場合に於ては、機宜を失せず米穀法の運用により、適當に處置せられんことを政府に建議したのは、農業者として當然の行動なるべしと云ふべきである。物價の低落を目的とする物價調節運動が、全國を通じて行はるゝ今日に、米價の騰貴若くは低落を防止するを目的とする米價調節運動が起るのは、人氣に背反するやうな譯で、世俗の反對を買ふべきは明白なるべしと雖も、農業者としては自己防衛の爲已むを得ざるのことにして、眞に同情に價ひする次第である。

△物價調節の困難なることは、政府が物價調節策發表以來の事實に徵して明らかである。東京市に於て、最近漸く湯錢が一錢だけ低下されたりと雖も、事實は今迄の子供四錢と云ふ湯錢を廢止して、四歲未滿三錢、四歲以上五錢の二階級となしたる爲、子供の多き家庭にては寧ろ湯錢を今迄より多く拂ふの結果を見たる譯となり、加ふるに今迄は自由に汲むを得てをつた、をか湯は衞生的の美名の下に蓋を設け柄杓にて汲むことになり、非常に不自由を感ずる譯になつたと云ふことである。これ等は所謂藪蛇とでも申すべきか、折角の御上の御骨折も、下々には迷惑となつた樣な譯である。砂糖なども

生産制限とか、販賣制度とかの爲で、最近一錢か二錢騰貴した。

△物價を低落せしむることが、困難なると同樣に、低落したる米價を騰貴せしむることも亦相當至難である。農業倉庫や販賣組合が、全國的に聯合して賣止をして見たところが、實際米が豊富であれば其の效果は蓋し顯著でないかも知れない。米穀法によつて、政府が相當の米を買上げたところで、是亦どの位の效果があるか、又現在政府として、果して相當の效果が現はれる程の、買上げをなし得るかどうかも疑問なのである。此に至れば、農業者が豐作を呪うて、ぼつ〱と生産制限せざるべからずと、唱ふるに至るのも無理からぬことである。

△余輩は農業者が、米の生産費の節減に向つて、今一層の努力を拂はれん事を望むのである。固より最近に於ては、生産費を顧慮せざる多收穫などを實行する者は絶無に歸したるべしと雖も、技術上及經濟上に於て、尚未だ生産費を節減なし得るの餘地、決して少なからざるべしと思ふのである。購買組合及購買組合聯合會の利用によりて、肥料其の他原料用品の購入に對し、利するところ多かるべく其の結果は生産費の節減となつて現はるべきである。之を肥料の購入について見るも、農業者の購買組合を利用する數量は、漸く二割餘に過ぎざるの狀態であるが、どうしても農業者の全部が、自己の組織してをる購買機關によりて、自己の使用する肥料を買ふやうにならなければ、生産費の節減に付て、最善の努力を盡したとは云へないのである。

△利用組合の活動による生産費の節減、これ亦今後に於て實行せざるべからざる問題である。現在の組織にある農業者に對しては出來る限りの範圍に於いて、共同的作業を擴大することが、生産費の節減を圖る最良の方法、換言すれば利益増加の最良の方法なのである。利用組合は之が爲に缺くべからざるの組織であつて、今後に於ける文明的農法の應用は、此の組合の働きに依るを至便なりとするのである。

△生産費の節減に向つて、最善の努力を盡すと同時に、米の販賣方法の革新を行ふことが必要なことである。農業倉庫や、販賣組合の活動を充分ならしめ、農業者は是等の機關によりて生産者たる自分等と消費者との利益を增加することに向つて、連續的の努力を試みるべきであつて、徒らに目前の小利に沒頭して、是等の機關の效果を發揚なし得ざるが如きことあれば、萬事休すと云ふべきである。

△農業者の負擔の輕減、此の問題は固より忘るべからざる重要事なのであつて、現在農村に於ける總ての問題の根本的解決は、一に此の農業者の負擔の輕減問題に落ち行くのである。地租を全廢せよ、さすれば米價は相當低落するを得べし。地租を全廢せよ、さすれば地主對小作の爭議に付ても、平和的接衛の餘地大に增加すべし。地租を全廢せよ、さすれば自作農業者の造成は、相當有利に進捗するを得べし。啻に地租のみならず、總ての農業者の負擔に對して、出來得るかぎりの輕減を期すべきである。農業者の從順にして、官權に服從するの美德を濫用することなく、都市の大資本家や大事業家

に對すると同樣の寛宥を以て●

△農業者の生活費を節減せんが爲に、産業組合に於て醤油の醸造をなせば、之を禁止す。漸く許せば其の手續きが面倒なるのみならず、聯合會には許さずと云ふ。電氣事業の産業組合經營の如きも、徒らに既設會社の保護にのみ重きを置きて、其の實行は隨分面倒臭きなり。煙草はいかん、鹽はどうのと、農業者に向つて利便を與ふることは、なか〳〵容易にはかどらざるが普通なのである。

△商業者は營業税の全廢を主張してをる。農業者は焉んぞ地租の全廢を主張せざる。帝國農會の農村負擔の輕減位では、手緩い譯。宜しく地主も、自作農業者も、小作農業者も……農村全體が組織的運動を起して之を主張すべきである。内輪同志の喧嘩にのみ沒頭して、漁夫に利を占めらるゝことのない樣に。

△されど同樣に、自分等がなさゞるべからざることは、全力を盡してなすべきである。之は何か？生産費の節減の爲に、購買組合と利用組合の活動。販賣方法の革新の爲に、農業倉庫や販賣組合の活動。(十一月五日稿)

——「産業組合」大正十一年十二月號——

第三　追　憶

一、平田會頭を憶ふ

——常に産業組合の事に心を勞せられた平田伯爵——

故平田伯爵が我國産業組合の爲めに盡された功績は、萬民の等しく認むるところであつて、我が組合は永遠に伯爵の惠澤を忘れてはならないことと思ふ。伯爵は内大臣の重職につかれたる爲産業組中央會々頭の任を辭されたのであるが、其の後に於ても常時産業組合の情勢に付て注意せられ、其の發達の爲めに心を勞して居られたのである。殊に組合が政黨の爲めに利用せられて組合本來の精神を沒却し、公正な働をなすを得ざるやうになりはせんかと云ふことに付いて、餘程考慮せられてをられたやうである。たしか大正十一年の秋の頃かと記憶するが、駿河臺の本邸から私に電話があつて伯爵が用事があるから來て貰ひたいとの事であつた。私は直に御邸に向つて伯爵にお目にかゝつたところ、伯爵は極めてうちとけられたる態度で、私に、近時各地に於ける政爭が段々と激甚になつて來てをるが、其の結果我が産業組合が此の渦中にまきこまれて、組合事業が或る一部の政黨の爲めに利用せられるやうなことがありはせんかと云ふことを質問せられ、御自分が他から御聞きになつた一二の事例

を御話になりました。私は其に對して然るべく御答を致し、尙此の事に付ては志村會頭も考慮されて居られ、最近開會せらるべき支會役員協議會の席上に於て注意を與へらるゝことゝなつて居りますと申し上げましたところ、御滿足になり、尙今後相當の方法によりて注意すべきことを御命じになりました。其の後大正十三年のことゝ思ふが伯爵が逗子の別邸に御移りになつて居られた時にも、或る日時事新報に產業組合に關する社說が揭載せられ、其の中に產業組合と政黨關係のことに付て論議したる一節がありましたが、其の時も伯爵から私に時事新報の如き有力なる新聞でさへも組合のことに付て甚だ誤解してをるやうで面白からぬことだから、充分に理解さすやうな盡力をしなければいかんと傳へられました。又伯爵が中央會々頭の任を辭せらるゝ際、私は伯爵の命に依り各理事に其の事を御傳へして後任者に關する各理事の御意見を伺つたのでしたが、其の時にも自分は內大臣の重任に當らなければならぬことになつたので、會頭の職は一應退かなければならぬのだが、產業組合とは決して離れはしない。組合の爲に働かなければならないことがあればいくらでも働いてやるから其の積りでそれと申されました。

私は記憶に存して居る以上三つの事を述べて伯爵が常に組合のことに心を勞せられてをられたことを組合員諸君に告げたいと思ふのである。

——「產業組合」大正十四年六月故平田名譽會頭追悼號——

二、志村會頭の追憶

本年四月、岐阜の全國產業組合大會に於ける二日間の志村會頭の元氣なる活動ぶり、之が私の目の前に髣髴として來るのである。開會劈頭一時間に近き演說、音吐明朗滿場に徹し、殊に產業組合の本質を論じて聯合運動の必要を說破せらるゝや、言々熱を帶び來りて五千の來會者をして襟を正さしめたのである。更に講師の講演に對しては、其の終るごとに立ちて、講師の勞を謝せられたるのみならず、講演の要旨に付ては聽衆に注意を喚起せられ、且つ講演中の喧騷の態度を戒められたのである。……會場の關係にて講演が全部に聞き取れず、爲めに後部は幾分喧騷の已むを得ざるに至つたのである。……最後に閉會の辭を最も愉快且つ滿足げに述べられて後、陛下萬歲の發聲をせられて目出度く大會を終られたのである。尙午後の園遊會には必ず出席して來會者一同と樂を共にすることになつてゐたのであるが、不幸にして雨天の爲め之を果すことが出來なかつたのである。岐阜の大會に於ける會頭の行動は、五千の同志の目擊したるところ、今迄になき會頭の元氣ある風姿、熱烈なる演說と、周到なる訓戒、之が會頭最後の活動とは、會頭自らも、又五千の同志も、夢にだに想到せざりしところ、されど之は天が會頭の平素の信念を滿足せしむるが爲めに、會頭をして我が產業組合運動に對する最後の活動を盡さしめたるものであらうと思ふのである。

×　×

志村會頭は平素から、社會の爲めに働き得ざる位なれば敢て生きて居るの要なしとの信念を有つて居られた。大正十一年札幌の全國產業組合大會に於て病を得られて以來、私は常に會頭の健康に付て不斷の注意を拂ひ、常に攝生を重んじ、靜養を續けられんことを望んでゐたのである。併しながら會頭は、自己の健康に餘り介意せざるが如く、少しく良好な狀態に向へば、各方面の事に關して身心を勞せられるのであつて、又周圍が之を餘儀なくさせるのである。我が產業組合方面に於ては、出來る限り會頭の靜養を妨げざる樣に終始努めて居つたのであるが、これでも昭和二年春の金融恐慌の際の如きは、未だ靜養を要する會頭を煩はしたる爲めに再び病を重らせたることもあり、又四年の四月には松江の全國產業組合大會に出席を請ひたるところ、折惡しく氣候不順の爲め同地にて病床に就かれたる事もあつたのであるが、產業組合關係以外の事業にて會頭の身心を勞せしめ、病氣の快癒を遲らしめたり、靜養を妨げたることは甚だ多かつたのである。故に私は常に會頭に向つて、いかに產業組合側に於て會頭を勞さゞる樣に注意して居つても、他の關係せらるゝ事業に於て會頭を煩はすことが多き時は、何の甲斐もなきことなれば、關係せらるゝ方面を出來る限り整理減少して、一意健康の回復に努めらるゝ樣に常に御願ひしてゐたのであるが、會頭はいつも笑ひながら必ず「靜養々々と云ふが、なにもせずに靜養せなければならぬやうなら寧ろ生きてない方がよい」と云はれたのである。然

じながら會頭は最近に於ては、關係せらるゝ仕事を整理減少せらるゝことを念とせられて居られたことは事實であつて、唯だ產業組合の事だけは一生の仕事としてやられる決心を持つて居られたのである。之は中央會附屬產業組合學校の寄宿舍を自ら建築されたり、雜誌「產業組合」や「家の光」の卷頭言を口述されたり、全購聯や、產業組合製絲のことに就て、常に配慮されてゐることでも明らかであつて、常に產業組合關係者の比較的眞面目にして、信賴するに足るべきことを語られ、一種の樂しみとして居られたやうである。斯くの如き信念を持つて居られた志村會頭が、其の會頭としての最後の大會に、二日間に亙つて最も元氣能く活動せられ、其の任務も完全に遂行せられたことは、恐らくは逝かれし會頭としても大に滿足されたことであらうし、又私共としても幾分か氣持ちよく感ずる次第である。

志村會頭は極めて圓滿な性格を有つて居られ、人に對して決して惡い顏をしたことがない。十年に亙りて接近してゐた私なども、會頭から未だ曾つて叱責されたことはなく、必要あれば溫言を以て注意を與へられるのである。時には一寸顏色を變へられるかの如く見ゆることあれど、直に溫顏に復されて懇ろに談話せられ、最後にはいつも愉快氣なる態度にて談笑せられたのである。圓滿な性格ではあるが、其の有せらるゝ思想はなか〳〵進步的であつて、時には私共が豫期せざる程の徹底したる意見を主張せられることがある。されば何事に就ても私共が徹底したる意見を主張することを喜ばれ、

不徹底なる妥協的なる意見は嫌うて居られたのである。然しながら實際に當りては妥協の必要を認めて居られ、正當なる主張は主張として論定したる上に於ての、實際に取らざるべからざる妥協的の意見を立てられたのであつて、之が會頭が各方面の事業の上に於て重きをなされたる一つの理由であつたらうと思ふのである。又會頭は何事に就ても形式に重きを置くことを嫌はれ、初めからむづかしい規程などを作つて、仕事を始めることを笑つて居られ、先づ以て法文無しで始めて、必要に應じ漸を追うて規則を設けると云ふ流儀であつた。然しながら他人の意見は根氣よく聞かれ、殊に會議の際などは、時のうつるのも念とせず、十分に各人の意見を吐露せしめて總てをして滿足せしめられたのであつて、之が會頭の一般から敬慕された一つの理由であつたらうと思ふのである。

×　×

私は最近七月二十九日から八月二日にかけて四回會頭に面會なし、その都度一時間から二時間近くの談話をしたのであるがいつも元氣よく語られ、用談の事に就ては例に依つて徹底的の主張と、妥協的の意見を述べられ、最後の二回の時には一層快活に最近の時事問題に就ての意見を話された上、九月上旬に中央會で開催する支會の役員及び協議會には出席するとの約束をせられたのである。されば八月二十三日の夜九時に志村邸より、會頭危篤の電話を受けた際は、其の眞僞を疑つた位であつた。又七月三十一日午後の訪問の際には、用談終りて後會頭は私に現在の經濟國難に處するの對策を語ら

れたので、一般の金利を下げる爲め日本銀行の利子引下の必要なる事を述べられ、今や物價は低落し勞賃も漸次低下するのであるから、此の際利子を下げれば事業は起るべしと論ぜられ、第二に政府が財政整理をなすには、先づ以て政府の仕事を減ずることが必要であつて、今の如くなんでも政府がやると云ふことでは到底財政整理が出來るものにあらず、故に第三には政府の仕事を減じて民間團體にやらせ、又官營事業にして民業に移しても差支へなきもの多かるべきを以て、之を適當なる方法により民業に移すときは、民間團體は發達なし、民間の事業は興りて、政府は財政の整理をなし得べしと述べられたのである。尙ほ米價問題に就ては、此の際政府米の拂下を急遽實行なして米價の騰貴を防止すると同時に、秋の收穫期に於て新米の買上をなす爲めの財源を少しでも多く用意なし置くことが必要であると語られ、その他政治、經濟上の問題に就ても、徹底したる意見を多く話されたのであるが、之等の談論が最後となつて、再び會頭の溫容に接し、その懇示を受くること能はざるに至りたるは、實に痛恨極まりなきことである。（九月十四日夜）

——「產業組合」昭和五年十月號——

三、岡田會頭を憶ふ

產業組合中央會の第三代の會頭であつた故岡田會頭は、會頭としては昭和六年十月からであつて、二年有餘の短かき年月であつたが、中央會との關係は一番長い方であつて、明治三十八年の大日本產

業組合中央會、即ち現在の中央會の前身である中央會が設立されたときからであるから、中央會との關係は産業組合法發布と同時であつて、三十四年間の長きにわたつてをられたので、表面には餘り立たれなかつたが、終始我が産業組合の爲めに心配されてをられた方であつた。

私が岡田會頭に遠慮なく色々と御話を致すことゝなり、又會頭よりも種々と御意見を承ることになつたのは、會頭に就任せらるゝ直前からであつた。志村會頭の逝去後、後任會頭として理事間に岡田氏を推すことに決定したのであつたが、直に承諾されなかつたので、私は前後三回程御目にかゝつて詳細に其の當時の産業組合中央會の情勢から、會頭就任の是非とも必要なることを卒直に御話したので、それにより相當の實情を理解された樣子であり、私に向つて種々なる御質問や又御意見や御注意などがあつたのであつた。其の御意見や御注意はよく地方の實際に適應してをつて、産業組合の堅實なる進展を圖るが爲めには私共も常に省慮してをる樣な重要事であるので、私は岡田會頭の實際に通曉して居らるゝことに感心したのであつた。

會頭に就任後は不幸にして健康が勝れざりしために、地方の人が出る會合には餘り出席されなかつたが、昭和七年の三月に一度代議員會に出席されたことがあるが、會議の議長としての議事のさばきかたなどは極めてなれた方で、終始なか〳〵愛想よく、地方から出席の人たちには懇ろに話をされ、而も私共當事者側の都合のよい樣に議事を進行され、誰をも滿足させると云ふやうなやり方をされた

のであつて、地方からの出席者も亦私共も感心したことであつた。

會頭として一度も全國産業組合大會に出席されなかつたことは、岡田會頭としても恐らくは非常に遺憾に思はれたことであつたらうし、又私としても甚だ御氣の毒に存じたのであつた。殊に昭和八年に東京に開いた全國産業組合大會のときであつたが、此の時は健康も回復されてをつたので、御自分も是非出席して開會の辭を述べられることにきめられて、それを樂んでをられ、私は開會の辭を作成して會頭の許に差上げて閱覽を願つたのであつた。不幸にして愈々開催といふ十數日前から、少し無理をされた爲めか又病床につかれることゝなつたのだが、御自分では大會迄には必ず全快して、大會には一寸でも出席して開會の辭を述べるし、若し述べられなければ、出席だけをして私に代讀してもよいから、是非出席したいと云つてをられたのであつた。がそんな無理をしてはと云ふことで、おうちのかたもおとめ申し、私も出席を御斷りをしたのであるが、之は今でも私は甚だ殘念と思つてゐることである。これにつけても、私は志村會頭が、御逝去された年の四月に、岐阜に於ける全國産業組合大會に出席されて極めて元氣よく活動されたことを思出して、岡田會頭に對しては一層御氣の毒に感ずるのである。

——「産業組合」昭和九年五月號——

——をはり——

昭和十年十一月十五日印刷
昭和十年十一月廿九日發行

不許複製

産業組合の陣營より　定價三圓八十錢

著作者　千石興太郎
東京市神田區小川町一ノ一
發行者　今泉訓夫
東京市牛込區山吹町三ノ一九八
印刷者　山本禎男
宗文社

發行所　高陽書院
東京市神田區小川町一ノ一
電話神田一七二四番
振替東京九〇〇三番

大取次所
東京　林平書店・栗田書店
東京　東京堂
大阪　大阪寳文館・柳原書店

〔最新刊〕

農學士 内ケ崎虔次郎　東京日日經濟部 山路通雄
日本農民組合々長 平野力三　東京朝日論説委員 關口泰
社會大衆黨書記長 麻生久　東京帝大教授 蠟山政道
衆議院議員農林省参與 助川啓四郎　東京帝大助教授 近藤康男
衆議院議員農林省参與 松村謙三
共著

産業組合と政治

四六判・函入
上製四百餘頁
定價一圓八十錢
送料普通十四錢

一夜造りの全國農村産業組合協會を中心とするところの産業組合の對議會抗爭は一敗地に塗れた。産業組合は政治進出の肸を固めた。悲憤に燃ゆる組合員は産業組合黨の結成をさへ急いだ。中央幹部は會議に次ぐ會議、對策に次ぐ對策に寧日なく組合自主を叫ぶ同志は行政府の壓迫に抗し産業組合陣營は古今未曾有の緊張を呈した。

從來とても産業組合は政治に無關係ではなかつた。たゞ組合員にして政治家たる者に組合意識による政治活動なく組合員も亦政治に無關心であつたのである。

政治的解決を除いて組合の否農村負債の重壓にあえぐ組合員の更生は絶對不可能である。行政府が好むと好まざるとに拘らず組合の政治進出は必然である。本書は朝野の大家に産業組合の政治進出の方途及之に附隨する諸問題の解説指導を乞ふた名著である。

◆産業組合全書◆

1	協同組合原論	東京帝大助教授	近藤康男
2	産業組合法通義	農林事務官	蓮池公咲
3	産業組合經營（原論）	東京帝大教授	佐藤寛次
4	産業組合經營（各論上）	東京帝大教授	佐藤寛次
5	産業組合經營（各論下）	東京帝大教授	佐藤寛次
6	産業組合金融	農學博士更生部長	小平權一
7	産業組合會計	中央會主事	徳永一之丞
8	農業倉庫利用論	全販聯主事	水野武夫
9	日本産業組合史	中央會主事	東浦庄治
10	海外産業組合史	宇都宮高農林教授	高須虎六
11	日本農業統制と産業組合		高橋龜吉
12	産業組合問題		組合運動關係諸先生

更生運動最新の理論體系
權威者・新鋭の書下し揃ひ
内容充實價格至廉の好機
農村經濟擴大強化の活知識

十二卷執筆者
東畑精一　田中長茂　那須皓　千石興太郎
五十子巻三　岡村精次　西村彰一　野間海造　周東英雄

◆一册一圓五十錢・全卷豫約者ニ限リ一圓二十錢◆
◆御申込次第規則書無代進呈◆

エトX83

高陽書院發行

産業組合問題研究會編

新刊

第一回 産業組合問題研究會報告書

菊判上製・二五〇頁
定價二・二〇・送料一〇

産業組合運動が一つの社會改造運動として重大なる使命を有することは明かだ。産業組合運動が徐々に其の潛勢力を展開して來た時、既成の資本主義經濟關係と衝突し其處に所謂反産運動なるものを惹起せしめた。この秋に當り組合運動の根本問題を究明すべく學者・實際家により生れた産業組合問題研究會第一回の報告書こそこれである。

産業組合法の任務……………………藤村讓
消費組合と農業生産者組合との關係……………………金井滿
産業組合の諸問題……………………田中長茂
時局蠶絲對策と産業組合……………………早川直瀬
産業組合の本質と農家協同組合……………………福鍋初太郎
産業組合デモクラシーに就いて……………………近藤康男
農村經濟の再組織と産業組合……………………田中長茂
　　　　　　　　　　　　　　　　杉野忠夫
流通過程と産業組合……………………千石興太郎
　　　　　　　　　　　　　　　　本位田祥男
生産過程と産業組合……………………那須皓
　　　　　　　　　　　　　　　　東畑精一

七大權威責任執筆

新刊

蠶絲業の動向と組合製絲

四六判・上製・函入
定價一・五〇・送料一二

- 産業組合論　中央會理事　千石興太郎
- 蠶絲業論　農林省技師　永井治良
- 繭取引論　全絲聯主事　碓氷茂
- 組合製絲經營論　全絲聯主事　千阪高興
- 製絲技術論　絲聯技師　飯島直
- 生絲金融並販賣論　絲聯常務理事　山崎藤治
- 蠶絲經濟論　全蠶聯主事　野崎清

先づ商品としての生絲の人絹其他の纖維の企及し難き優越性の解明より、最近の製絲技術上の諸問題、繭絲の取引及其市場・製絲工場經營の諸問題さては生絲金融の諸問題、蠶繭處理を中心とする政策問題等蠶絲業の技術上・經營上百般の知識を平易に解說する。
　我國蠶絲業の大觀は固より世界蠶絲界に於ける我國の地位及び其の將來をも指示して誤りなき桑界人必讀の名著である。